

夏の注意点 — 蚊・熱中症・悪天候にご用心 —

※参考: 厚生労働省「感染症の運び屋蚊からバリアーで身を守れ!!!」・「ジカ熱・デング熱の運び屋ヒトスジシマカの発生源を叩け!」

ジカ熱・デング熱対策 感染症の運び屋 **蚊** からバリアーで身を守れ!

■やぶなどの蚊がいそうな場所に行くときは、肌を露出せず、虫除けスプレーを使用するなど、蚊に刺されないように注意しましょう!
 ■ジカ熱やデング熱の流行地に渡航する場合は、現地で蚊に刺されないように注意しましょう!

なぜ対策が必要?

ジカ熱やデング熱は蚊を介して感染します。原因となるウイルスは、感染した人の血を吸った蚊(日本ではヒトスジシマカ)の体内で増え、その蚊がまた他の人の血を吸うときにウイルスを移し、感染を広げていきます。



ヒトスジシマカの発生源を叩け!

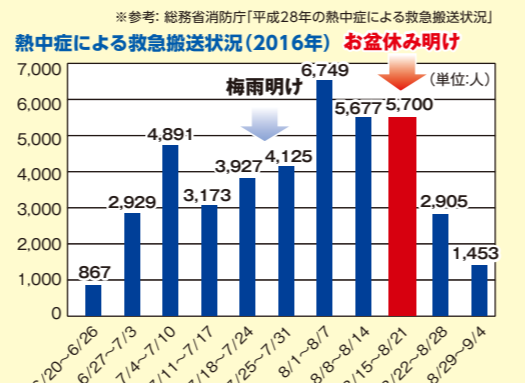
■蚊の発生を減らすために、定期的に幼虫が発生しそうな周囲の水たまりの除去・清掃をしましょう!

■下草を刈るなど、成虫が潜む場所をなくしましょう!

水たまり除去・清掃	下草刈り
<ul style="list-style-type: none"> ・植木鉢の皿 ・雨除けのブルーシートや古タイヤの水たまり ・雨ざらしの用具 ・屋外に放置された空きビン、缶、ペットボトル ・詰まった排水溝 	<ul style="list-style-type: none"> ・風通しの悪いやぶ、草むら

お盆休み明けの熱中症にご用心!

梅雨明けの急激に気温が上昇した時に、熱中症が多発することは知られていますが、お盆休み明けにも熱中症が増加する傾向があります。これは、お盆休みで数日間、暑熱作業から離れることで暑さへの順化が喪失してしまうためです。お盆休み明けにも梅雨明けと同様な作業管理の配慮が必要なのです。



★対策の基本は「こまめな水分補給」です★

- 【熱中症を正しく知って対策しましょう!】
- ポイント1 熱中症は死に至るだれもがなる恐い災害です
 - ポイント2 熱中症を現場で起こすと労働災害になります(墜落災害や転落災害と同じ扱いです)
 - ポイント3 現場で対策を徹底し、一人一人が正しい知識をもって防止に努めれば防げる災害です
- 労働基準監督署が調査に入り、報告を求められ処罰もあります。不休災害や休業災害の扱いになり現場の管理、防止活動がされていない場合、元請・事業主責任を問われ処罰を受けます。

災害多発! 悪天候の場合、その兆候により 日頃より避難準備を強化しておきましょう

- 機械を安全な場所に移動する
- すぐに作業を中止する
- すぐに避難する

弊社発祥の地である「足利市」には、伝統ある花火大会として「足利花火大会」がございます。毎年8月第一土曜日に45万人以上の人でぎわう今年で103回を数える北関東随一の大会です。尺玉(しゃくだま)や仕掛け花火、ワイドスターメインなど、2万発の花火が夜空を明々と彩ります。大迫力の花火を近距離で眺められるのも、大きな魅力のひとつです!

50th Anniversary
 Rentalsのニッケン
 ホームページでも最新情報をお届けしています。是非ご覧ください。
 レンタルのニッケン 検索 **メルマガ配信!**

安全ニュースのご活用についてのお願い
 弊社は皆様の、安全作業に関するよりよい情報をご提供するため、安全ニュースの制作・配布に取り組んでおります。下記、ご理解いただき、ご活用いただけますようお願い致します。
 ●安全ニュースの一部または全部において、個人・法人を問わず、弊社および引用先(各種団体など)の許諾を得ずに、いかなる方法においても、営利目的にて、無断で販売・複製・複製・加工・加筆および、公衆送信(インターネットやそれに類した送信)などを利用して提供することを禁じております。
 ●弊社は、本紙の内容において如何なる保証も行いません。
 ●本紙内容にて発生した障害および事故についても、弊社は一切責任を負いません。



安全ニュース

- Safety News - 2017年8月号 No.188

株式会社レンタルのニッケン
 編集・発行 安全技術部/営業支援部
 お問い合わせ TEL.03-5512-7411
 発行日 2017年8月1日

2017年9月号の予告 全国労働衛生週間

特集 **電気使用安全月間**

- 感電災害発生状況
- 感電による人体への影響と災害防止対策
- 夏の注意点 — 蚊・熱中症・悪天候にご用心 —

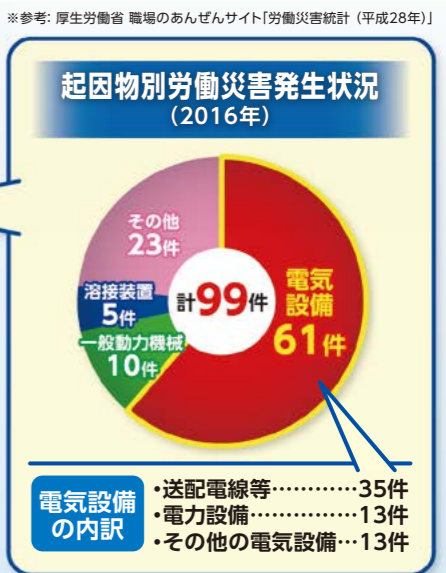
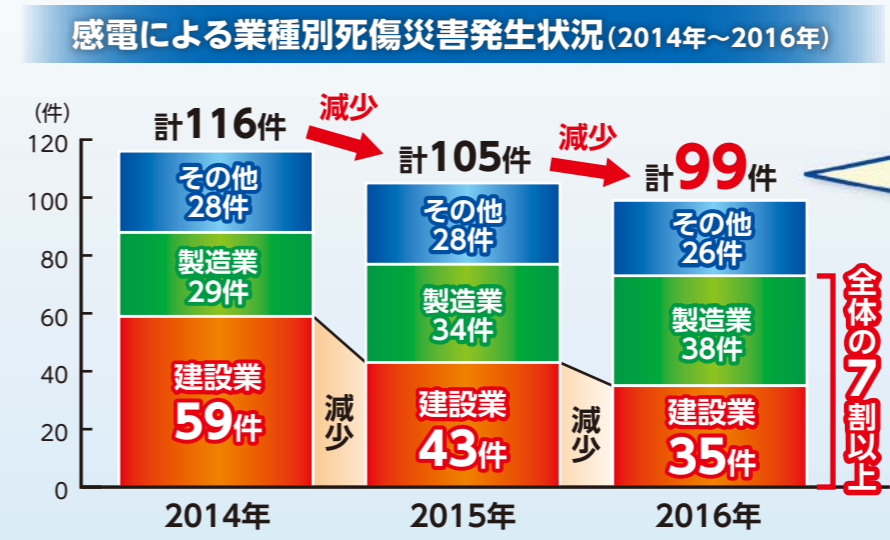
8月は「電気使用安全月間」です ■期間/8月1日~31日 主唱:経済産業省

- 2017年度 全国統一 重点活動テーマ
- 日頃から電気の安全を心がけ、かしこく上手に使いましょう
 - 自家用設備の電気事故は、適切な保守点検と計画的な更新で防ぎましょう
 - 地震・雷・風水害などの自然災害にそなえ、日頃から電気の安全に努めましょう

なぜ8月に感電事故が多く発生するのか?

- ★ 暑さから絶縁保護具等の使用を怠りがちになる
- ★ 着衣が軽装となり、肌の露出が多くなる
- ★ 高温多湿で注意力が散漫になりやすくなる
- ★ 発汗により皮膚の電気抵抗が小さくなる

感電災害発生状況



感電による死傷災害の発生件数は、ここ3年間減少傾向にあります。業種別では「建設業」と「製造業」の上位2業種で全体の7割以上を占めている傾向に変わりはありませんが、建設業では2014年の約60%ほどに減少し35件となった一方で、製造業では約30%増加し38件となりました。起因物別にみても、電気設備が61件と最も多く、その内訳としては送配電線等35件、電力設備13件、その他電気設備が13件となります。

電気使用安全月間に関連し、中面では「感電の仕組みと感電による人体への影響」そして「感電災害防止対策」をまとめました。また裏面では「夏の注意点」として「蚊」・「盆休み明けの熱中症」・「悪天候時の対策ポイント」について掲載しております。夏のトラブル対策のお役にたてば幸いです。

★ ホームページにも掲載しております!是非ご覧ください。★

安全ニュースで取り上げて欲しい題材やご意見ご要望などがございましたら eメールをご活用ください。e-mail : nikken@rental.co.jp